

定期作況報告

(第6号 平成23年10月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

9月下旬：最高気温は平年より0.9℃高く、最低気温も平年より0.8℃高かった。降水量は平年より38.4mm多く、平年対比209%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より4.5時間多く、平年対比109%であった。

10月上旬：最高気温は平年より2.9℃低く、最低気温も平年より2.8℃低かった。降水量は平年より20.1mm多く、平年対比152%であった。降水日数は平年と同じであった。日照時間は平年より5.5時間少なく、平年対比88%であった。

10月中旬：最高気温は平年より0.4℃高く、最低気温は平年より0.1℃低かった。降水量は平年より14.8mm少なく、平年対比49%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より0.7時間少なく、平年対比98%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.5	18.6	0.9	14.3	17.2	▲ 2.9	15.5	15.1	0.4	16.4	17.0	▲ 0.6
最低気温(℃)	8.0	7.2	0.8	3.8	6.6	▲ 2.8	4.0	4.1	▲ 0.1	5.3	6.0	▲ 0.7
平均気温(℃)	13.4	12.6	0.8	9.0	11.4	▲ 2.4	9.4	9.3	0.1	10.6	11.1	▲ 0.5
降水量(mm)	73.5	35.1	38.4	58.5	38.4	20.1	14.0	28.8	▲ 14.8	146.0	102.3	43.7
降水日数(日)	2	5	▲ 3	6	6	0	3	6	▲ 3	11	17	▲ 6
日照時間(hr)	54.8	50.3	4.5	39.7	45.2	▲ 5.5	44.4	45.1	▲ 0.7	138.9	140.6	▲ 1.7

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事由：8月下旬の好天により登熟は順調に進み登熟日数は平年並～4日短く、成熟期はほぼ平年並となった。

〔籾数〕 m^2 当たり穂数は平年対比「ほしのゆめ」が99%「きらら397」が96%「ななつぼし」は93%で平年並から少なかった。一穂籾数は平年対比「ほしのゆめ」は100%「きらら397」も103%で平年並であったが、「ななつぼし」は92%で少なかった。その結果、 m^2 当たり籾数（ m^2 当たり穂数×一穂籾数）は平年対比「ほしのゆめ」は99%「きらら397」が100%で平年並であったが、「ななつぼし」は86%で少なかった。

〔稔実歩合〕稔実歩合はいずれの品種も平年より高く、平年対比103～104%であった。 m^2 当稔実籾数（ m^2 当たり籾数×稔実歩合）は平年対比「ほしのゆめ」は101%「きらら397」は104%とやや多く、「ななつぼし」は90%で少なかった。

〔登熟歩合〕登熟歩合は平年対比「ほしのゆめ」は105%で「きらら397」と「ななつぼし」は110%と平年より高かった。

〔精玄米千粒重〕千粒重は平年対比99%～101%で平年並みであった。

〔精玄米重〕粒厚1.90mm以上の収量は平年対比で100%～103%と平年並からやや多収であった。

以上、 m^2 当たり籾数は平年並～少ないが、稔実歩合、登熟歩合が高かったことから収量は平年並～やや多収となった。したがって、本年の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名	苗	成熟期(月・日)			登熟日数(日)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	9.06	9.04	2	45	45	0
きらら397	成苗	9.09	9.11	△2	46	50	△4
ななつぼし	成苗	9.08	9.09	△1	47	49	△2

注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) △印は平年に比べて「早」（成熟期）を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品種名	苗	m^2 当たり穂数(本)				一穂籾数(粒)				m^2 当たり籾数(×1000粒)			
		本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ	成苗	726	736	▲10	99%	42.5	42.7	▲0.2	100%	30.9	31.3	▲0.4	99%
きらら397	成苗	663	690	▲27	96%	44.5	43.3	1.2	103%	29.5	29.6	▲0.1	100%
ななつぼし	成苗	615	664	▲49	93%	47.8	51.8	▲4.0	92%	29.4	34.3	▲4.9	86%

品種名	苗	稔実歩合(%)				m^2 当稔実籾数(×1000粒)				登熟歩合(%)			
		本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ	成苗	95.3	92.4	2.9	103%	29.4	29.0	0.4	101%	90.6	85.9	4.7	105%
きらら397	成苗	96.5	92.5	4.0	104%	28.5	27.4	1.1	104%	93.1	85.0	8.1	110%
ななつぼし	成苗	96.1	92.1	4.0	104%	28.3	31.6	▲3.3	90%	94.9	86.3	8.6	110%

品種名	苗	㎡当登熟粒数(×1000粒)				精玄米千粒重(g)				精玄米重(kg/10a)			
		本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ	成苗	28.0	26.9	1.1	104%	22.2	22.4	▲0.2	99%	596	577	19	103%
きらら397	成苗	27.5	25.2	2.3	109%	23.4	23.1	0.3	101%	627	608	19	103%
ななつぼし	成苗	27.9	29.6	▲1.7	94%	22.5	22.2	0.3	101%	635	637	▲2	100%

注1) 平年値は平成16～22年7か年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5か年の平均を用いた。

2) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

3) 一穂粒数の平年値は、登熟調査および不稔調査を行った計12株の平均値を用いた。本年値は22株の平均値を用いた。

4) 稔実歩合：触手で求めた。

5) 登熟歩合：比重1.06の塩水選で求めた。

6) 精玄米千粒重・精玄米重：粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

2) 秋まき小麦： 不良

事由：播種期は平年より5日遅い9月15日、出芽期は平年より8日遅い9月26日であった。播種期以降の降水量が多く土壌が過湿傾向で推移し、10月上旬の気温が低かったため生育は緩慢であった。現在のところ、平年と比較して草丈、茎数、葉数とも下回っている。

したがって、目下の作況は不良である。

表4 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	播種期 (月日)			出芽期 (月日)					
	本年	平年	比較	本年	平年	比較			
きたほなみ	9.15	9.10	5	9.26	9.18	8			
品 種 名	草 丈 (cm)			茎 数 (本/㎡)			葉 数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	14.5	23.7	▲9.2	487	1199	▲712	4.1	5.1	▲1.0

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 大豆 : やや不良

事由：子実重は平年よりやや少ない平年比96%であった。百粒重は平年より4.9g軽く、前7か年中最も軽い年よりも軽かった。屑粒率は平年より多かった。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表5 大豆の収量

品種名	子実重 (kg/10a)				百粒重 (g)			屑粒率 (%)		
	本年	平年	比較	対平年比(%)	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	417	436	▲19	96	33.1	38.0	▲4.9	2.2	0.7	1.5

注 1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

4) 小豆 : やや不良

事由：百粒重は平年を上回った。子実重は「エリモショウス」で平年比94%、「しゅまり」で同95%とやや低収であった。屑粒率は平年並からやや下回った。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 小豆の収量

品種名	子実重 (kg/10a)				百粒重 (g)			屑粒率 (%)		
	本年	平年	比較	対平年比(%)	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモショウス	294	312	▲18	94	12.6	11.8	0.8	1.2	1.2	0.0
しゅまり	287	303	▲16	95	12.2	11.3	0.9	0.9	1.8	▲0.9

注 1) 平年値は、前7か年中、平成16年、20年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。